



産業精神保健研究機構

Research Institute of Occupational Mental Health

産業精神保健研究機構(リオム)研究会のご案内

海外のプレゼンティーズムに関する諸研究によって、有意に職場の生産性に悪影響を与えていることが明らかになっている「慢性疼痛」をテーマとした研究会を、来る2018年5月14日(月)に東京赤坂の紀尾井タワーで開催することとなりました。

RIOMH(リオム)会員で慢性疼痛の専門家である滋賀医科大学ペインクリニック科の福井 聖 教授をお招きし、「痛みと職場の生産性の関連およびその対策」をテーマにご講演いただく予定です。

各種治療技術の進歩により、慢性的な痛みを持った状態で長期間働いたり生活することは今後ますます増えてくることと思われ、痛みの管理は個人のQOL(生活の質)や職場の生産性の問題にとどまらず国民全体の問題でもあり、その現状やお取り組みについてもお話しが聴ける貴重な機会ですので、ご都合のつく方は奮ってご参加ください。

【テーマ】 「痛みと職場の生産性の関連およびその対策」

【日時】 2018年5月14日(月) 17:00~18:30(16:30開場)

【演者】 滋賀医科大学ペインクリニック科 教授 福井 聖 先生

【プログラム】

講演1: 産業精神保健研究機構 RIOMH 代表理事 宮木幸一

講演2: 滋賀医科大学ペインクリニック科 教授 福井 聖

質疑応答・ディスカッション

【場所】 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー17階(先に18階専用受付にお越し下さい)

東京都千代田区紀尾井町1-2 <http://www.tgt-kioicho.jp/access/>

【参加費】 無料

【主催】 産業精神保健研究機構 RIOMH(リオム)

【福井 聖 教授 ご略歴】

1982年 山口大学医学部卒業後、1996年 滋賀医科大学麻酔科 講師を経て、2008年より滋賀医科大学 附属病院ペインクリニック科 病院教授。専門はペインクリニック、脊椎疾患に対する透視下神経ブロック療法、高周波熱凝固法、パルス高周波法、椎間板内療法、痛みの脳機能画像、学際的な慢性痛の治療。

【研究の話題】

最近米国の新薬治験では、鎮痛薬や抗アレルギー薬の評価でプレゼンティーズム指標である WHO-HPQ が、仕事の生産性評価のアウトカム指標として活用されており（*Pain Practice* 2017 <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26857424>）、ランダム化比較試験 RCT という科学的に厳密な研究手法により WHO-HPQ による絶対的プレゼンティーズムスコアとアブセンティーズムスコアのはっきりした改善（勤務中の生産性損失スコアが 67.0 から 77.1 に改善し、月当たりの欠勤時間が 13.6 時間から 10.0 時間に減少）が証明され新薬評価の新しい潮流を感じさせます。

痛みやアレルギー症状自体が緩和されることは当然重要ですが、それに加えて学校生活や仕事の生産性が向上するところまで証明できることはより望ましく、こうした話題に関しても当日ディスカッションできましたら幸いです。よろしくお願いいたします。

書籍と新調査票のお知らせ

2018 年 3 月に宮木代表理事と同門の櫻澤先生との共著『キャリアコンサルティングに活かせる 働きやすい職場づくりのヒント』（金剛出版）が出版されました。労働新聞社の書評（労働新聞 平成 30 年 4 月 9 日第 3156 号 16 面）でも好意的に取り上げられましたが、宮木寄稿の第 9 章「働きやすい職場づくりに向けた障害者支援」以外にも、先日労働政策審議会が答申した「第 13 次労働災害防止計画」でも取り上げられた「キャリアパス」を考慮した職場の健康管理に役立つ情報が複数取り上げられています。

少し遅れていますが 6 月には東京大学出版会から、宮木による「発達障害者の就労支援とプレゼンティーズム---誰もが力を発揮できる職場づくり---」が出版されますので機会がありましたらご高覧下さい。



それから新しく活用できる調査票が増えました。ジェネラルな指標である WHO-HPQ をテーマ別に掘り下げるものとして、他の疾患特異的な国際指標を参考にした下記のような拡張設問です。

こうしたテーマ特異的・業種特異的な設問が加わると得られる知見も多くなり、プレゼンティーズム評価の事後措置として具体的な改善策が立てやすくなり（生産性に影響する要素は複数ありますが、例えば下記 Pain Specific のスコアが悪ければ慢性疼痛に対する介入が有効と判断できます）、またそうした改善策を実施した際の効果測定（例えば腰痛対策を行った前後でのより詳細な生産性比較）も容易になると思われます。追加の登録や費用なく無償利用できますので、活用希望の方は事務局までご連絡下さい。

WHO-HPQ 日本語版+PS (Pain Specific) 質問紙

以下の質問は、慢性疼痛（慢性的な痛み）があなたの仕事や日常の諸活動に及ぼす影響について伺うものです

1. 過去7日間、慢性疼痛（慢性的な痛み）により、何時間くらい仕事を休みましたか？

慢性的な痛みが原因で体調が悪く休んだ時間、遅刻・早退をした時間などは全て含めてください。

この調査に参加するために休んだ時間は含めません。

時間(00-97)

2. 過去7日間、仕事をする際、慢性疼痛（慢性的な痛み）がどれくらい仕事の「生産性」（どのくらい本来の力を発揮できているか）に影響を及ぼしましたか？

仕事の量や種類が制限されたり、したいと思っていた仕事が進成できなかったり、普段通り注意深仕事ができなかったりした日の事などを思い出してください。もし、仕事に対する慢性疼痛の影響が少ししかなかった場合は、小さい数字をお選びください。影響がひどかった場合は、大きい数字をお選びください。

仕事をしている間、慢性疼痛がどれくらい生産性に影響を及ぼしたかのみお考えください。

慢性疼痛は仕事に影響を及ぼさなかった

慢性疼痛は完全に仕事の妨げになった

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

3. 過去7日間、慢性疼痛（慢性的な痛み）がどれくらい仕事以外の日常のいろいろな活動に影響を及ぼしましたか？

日常の諸活動とはあなたが普段こなしている家事、買い物、育児、運動、勉強などの活動を指します。活動の量や種類が制限されたり、したいと思ったほど活動ができなかったりした日の事などを思い出してください。もし、日常の諸活動に対する慢性疼痛の影響が少ししかなかった場合は、小さい数字をお選びください。影響がひどかった場合は、大きい数字をお選びください。

慢性疼痛がどれくらい、仕事以外の日常の色々な活動に影響を及ぼしたかのみお考えください。

慢性疼痛は日常の諸活動に影響を及ぼさなかった

慢性疼痛は日常の諸活動の完全に妨げになった

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

事務局より

個人会員・企業会員の皆様には、新年度の会費納入をお願いしております。

調査票の利用にあたっては、研究会や情報交換会の開催を通して最新の情報を会員にお伝えし、我が国でのWHO-HPQによる生産性定量化の有効活用を促進し、会員間で優れた実践事例を共有することで現場での生産性向上につなげるべく、調査票利用年度の入会をお願いしている次第です。請求書が必要な方は下記事務局アドレスまでお申し出くだされば発行いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

会員の種類		年会費
一般会員	研究者、産業保健スタッフ、人事労務担当者、障害者就労支援者など	5千円
企業会員 A	企業内で活用される方(従業員数 300 人未満)	1万円
企業会員 B	企業内で活用される方(従業員数 300 人以上 1000 人未満)	3万円
企業会員 C	企業内で活用される方(従業員数 1000 人以上)	10万円

注：企業会員会費が上記のように変更となりました。

ご意見のあった従業員数 50 人～300 人の企業負担が大幅に軽減されています。

<振込先>

ゆうちょ銀行 〇一八（ゼロイチハチ）支店

普通口座: 9411938 産業精神保健研究機構（サンギョウセイシンホケンケンキュウキコウ）

お尋ねのあった Facebook 上での参加登録方法についてですが、ログインした状態で「興味あり」と表示されているところをタッチ（PC であればクリック）し「参加予定」を選択すれば登録できるかと思えます。

<https://www.facebook.com/events/151826768829492/>

解決しなければ事務局にメールでご一報いただき、当日直接お越しく下さい。

お手数をおかけしますが、よろしくようお願い申し上げます。

WHO-HPQ 日本語版事務局：東京都渋谷区道玄坂 2-16-4 野村不動産渋谷道玄坂ビル 6 階

03-5436-7814（平日のみ 9 時～18 時）

E-mail：riomh-staff@umin.ac.jp Website：http://riomh.umin.jp/